

初夏を彩る大輪

200品種4000株を超える東北最大級の規模を誇る花と泉の公園(花泉町老松)のぼたん園。好天にも恵まれ例年より早い5月中旬から下旬にかけてピークを迎え、白や紫に加え遅咲きの黄色など多彩な色のボタンが咲き誇り、たくさんの観光客を魅了しました。

東日本大震災の被害に配慮し、今年は「ぼたん・しゃくやく祭り」と銘打っての開催はしていませんが、例年通り4月29日から開園。県外からもたくさんの観光客が訪れ、ベンチに腰かけてゆっくり鑑賞したり、ボタンをバックに記念撮影したりと、思い思いに散策を楽しみました。また、園内にあるぼたんハウスでは、窯で焼いた本格ピザや臨時休業中のレストランはずみのメニューも堪能できます。

期間中は、仮装撮影会やチャリティー芸能発表会など復興イベントも開催され、にぎわいをみせた同園。5月下旬からは2000株のシャクヤクが見頃を迎え、観光客を楽しませてくれます。



上/初夏の日差しを浴びて咲き誇るボタン
右/華麗に咲くボタンをバックに記念撮影する観光客



沿道に捨てられたごみを拾いながら歩く子どもたち

古里の豊かな自然を守る

東山町の束稲森林愛護少年団による束稲清掃登山は5月31日、束稲山で行われました。森林愛護に対する意識を高めようと、同少年団を構成する田河津小学校の4・5年生が例年行っているもので、今年は23名が参加。

ごみ袋を手に、山頂から約2kmの区間で沿道などに捨てられた空缶やペットボトル、たばこの吸殻などのごみを拾い集めました。団長の那須野日和さん(5年)は、「ごみは去年より少なくなったけどまだまだたくさんある。ポイ捨てはやめてほしいです」と自然を大切にしたい気持ちを新たにしていました。



分野ごとに並べられたさまざまな図書

知ろう、防ごう、見直そう

「身近な災害を知る」をテーマに、東日本大震災を契機とした企画展が一関図書館で開かれました。まずは、日常に潜む災害について改めて知ってもらいたいと、災害関連図書が集められました。

5月22日まで開かれた同企画展。地震や津波、エネルギーなどについて知ることができる図書の数々。それらは、次々と貸し出されており、利用者の関心の高さがうかがえました。

図書の貸し出しは随時可能。10月には新たに震災に関する企画展が開かれる予定です。